

事故多発、物流停滞、人手は不足

豪雪で市民の命と暮らしが深刻な事態に

今冬の豪雪で10日、上越市に災害救助法が適用されました。今回の降雪は、高田での8日の24時間降雪量が観測史上最大となるなど、まさにどか雪で異常です。そして、市民のいのちと暮らしが深刻な事態となっています。

雪に起因する被害ですが、13日現在、人的被害は死者2人、重傷者12人、軽傷者19人となっています。除雪作業に携わっていた高齢者が2人も亡くなりました。建物被害は、住家の一部損壊が31棟、非住家の全壊9棟、半壊3棟、一部損壊が34棟。農業用施設は全壊9棟、大規模半壊2棟、一部損壊50棟です。

どか雪で市内各地の道路は通行不能、または通行できても極めて危ない状態となりました。除雪業者が懸命に除雪しても追いつかない状況が続いています。こうしたなか、鉄道、バスも動かないところが続出。病院へ行けない、ガソリンなどの燃料が手に入らない、食料などの買い物に行けない、物資が届かないなどの事態も起きています。

私は10日、近くの集落の高齢者世帯を

歩いて訪問してきました。「近所のお父さんから除雪機で木戸先の雪を飛ばしてもらい、助かっている」「民生委員さんから心配して電話もらった」「毎日、半日ずつスコップで除雪しているが、くたびれた。家が潰れなきゃいいかと心配だ」「家の中、電気つけねと真っ暗だ。〇〇さんに屋根の雪下ろし頼んだら、うちの前に6軒頼まれているとか。困った」などの声が寄せられました。要援護世帯などの除雪も人手不足で遅れています。

日本共産党議員団ではこの間、市民の皆さんの要望を市役所につないできました。具体的には、①「要援護世帯」だけでなく、実際に救助を求めている世帯すべてに支援の手を差し伸べてほしい、②道路の除排雪などの情報などをより丁寧に市民に伝えてほしい、③2006年や2011年の災害救助法適用時に、県がバックホーやダンプなどの重機を借り上げて、町内会所有の建物や集落内道路などに支援したが、今回もそれに取り組んでほしい、などです。

ご要望がありましたら、私の携帯電話(090-5392-1961)にご連絡を。



雪に埋まった上下浜駅周辺 (12日)



圧雪が残ってまともに走れなくなった吉川区下町の市道 (13日)



4日前後の雪の壁 大島区竹平、10日

市議会から市長に緊急提言



【シキザクラ】再掲。バラ科の植物。漢字で「四季桜」と書きます。サクラの園芸品種の一つで、エドヒガンとマメザクラの交雑種だと言われています。初めて見たのは、十数年前、吉川区高沢入でのことです。雪の中で桜が咲いているのには感動しましたね。写真は7日、三和区末野にて撮影しました。

- 市議会では13日、飯塚議長が総務、文教経済、厚生、農政建設の4常任委員長、災害対策特別委員長と今冬の豪雪対策について協議しました。
 - その結果、市民生活の安全・安心の確保をはかるため、村山市長に提言を出すことを決めました。提言書は15日の午前、市長に手渡されました。以下は提言書の具体的な内容です。
 - ①市道除排雪の促進による道路交通の確保。
 - 全力で除排雪を行っていることは理解しているが、道路交通が適切に確保できていない、迅速な一斉雪下ろしが必要となっている地域があるなど、現在の状況は市民生活に大きな影響を及ぼしているところであり、引き続き除排雪に注力いただきたい。
 - ②災害救助法適用と要援護世帯への除雪支援の期間延長
 - 災害救助法の適用期間の延長を国・県に働きかける
 - ③自衛隊派遣の再要請
 - 自衛隊派遣を再度、要請をするとともに、対象範囲を拡充すること。
 - ④児童・生徒の通学路における安全確保
 - 小中学校再開に向け、児童・生徒の通学路における安全確保に十分留意すること。
 - ⑤市民への情報提供の拡充
 - 市民への情報提供を、防災無線、防災ラジオ、コミュニティラジオ、地元ケーブルテレビ、SNS、回覧板等様々な手段を通じて行うこと。また、それぞれの地域における除雪やごみ収集の予定など、市民生活に密着したきめ細かな情報を提供すること。
- 村山市長は、適用期間の延長を要請したこと、自衛隊の再派遣の要請を行いたいなどと答えたということです。

はしづめ法一の活動レポート

No.1994 2021.1.17
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第六四一回

道つけ

もう二度と道つけをするのではないだろうと思っていました。それが今回の豪雪で、それこそ数十年ぶりにカンジキをはき、道つけをすることになりました。

道つけをする事になったのは、災害救助法が適用された翌日、十一日のことです。前日から、わが家の除雪機は故障して、この日は除雪機を修理してくださいと人が来られる予定でした。故障した除雪機がある場所の近くの道には前日からの雪が六〇センチほど積もっていて、車は入って来られません。ならば、修理に来る人が難儀しないですむようにと、除雪してある道までの約二百メートルを道つけすることにしました。

最初は、左右の足で交互に踏み固める昔ながらの方法で進みました。でも、六〇センチの雪は七〇代の人間にはきつく、一〇センチまでこの方法はあきらめました。

それ以降は左足で三回、右足で三回踏んで進む方法に切り替えました。こちらの方が楽に思えたからです。五センチほど進んで一息入れ、また前に進む、それをずっと繰り返しました。ただ、この方法でも疲れはすくなく、つらかったです。

三〇センチほど進んだところからは杉林沿いの道となります。そこでは杉の木から落ちた雪で固くなっているところもあれば、月面クレーターのよう大きなへこみができているところもありました。私は杉の木からの白いバクダンに直撃されないよう注意しながら進みました。

全体の半分、約一〇〇メートルまで進んで、左前方の空から「ケエーッ、ケエーッ」という鳥の鳴き声がありました。雁行です。きれいな「くの字」になって飛び去っていきました。雪がちらちら降ってはいましたが、雁たちは雪に負けずに飛行を続けているんですね。この日は道つけをしているときに三回も雁行と出会いました。もっとも後の二回は五、六羽の飛行で、最初のような

「くの字」ではありませんでしたが……。

左右に田んぼが見える場所まで行き、少し明るくなったなと思ったら、雲の切れ目からちよっとだけお日様が顔を見せてくれました。そのバックには青空も見えます。冬の青空は希望です。ホッとしました。

道つけは、尾神岳のふもと、蛭場に任んでいた子どもも時分、朝の仕事の一つでした。小屋や納屋に行く道、わが家から集落の中を通る道につながる道など、何十回となくやってきました。それはさほど苦痛ではなく、むしろ、家族の中での自分の役割を發揮できた喜びを感じたものです。

でも今回はそうした懐かしい思い出にひたる余裕はまったくなく、汗をかき、山登りで急な坂道を登ったときのような疲れを感じました。

疲れると、どこまで進んだかがとても気になります。踏み固めた道を振り返り、そして前方を見る。「まだ、こんなにあるのか」。先がいやに遠く感じられました。

たいへんさを意識しはじめ、下を向いて踏み固めていると、雪道はどうしても右や左に曲がってしまします。私が踏み固めた道はなかなかまっすぐにはなりません。

酔っ払いが歩いた道のように見えました。今回の道つけ、長さは二百メートルですが、その時間はかからないだろうと思っていました。甘かったですね。所要時間は、何と一時間もかかりました。

数十年ぶりの道つけをするまでは、正直言って、カンジキをはいた道つけがこんなにもたいへんな作業だとは思いませんでした。そのことに気づいたとき、蛭場から半入沢入り口までの約五〇〇メートルを道つけしてくれた母や蛭場の母ちゃんたちへの感謝の気持ちで胸が一杯になりました。

サクラサワ、ヒガシ、オオヒガシ、イドンシリ、ムコウ、カミ、オオニシのかあちゃんたち、ありがとうねえ。

風がつくりだした雪上芸術



7日の午後からすごい風が吹きました。この風で木の枝や葉っぱがあちこちで舞いました。屋根が飛ぶなどの被害もありました。

強い風のせいでしょうか、田んぼにはさまざまな模様が出来ました。まさに雪上芸術です。写真は吉川区山直海で8日に撮影しました。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	1月6日(水)	1月13日(水)
上越南消防署	0.053	0.057
上越北消防署	0.040	0.040
新井消防署	0.053	0.044
頸北消防署	0.053	0.050
頸南消防署	0.063	0.060
東頸消防署	0.050	0.053
名立分遣所	0.053	0.043
高士分遣所	0.053	0.057

人口減少対策で勉強会

人口減少対策特別委員会の勉強会がこのほど開かれました。市創造行政研究所の内海副所長から上越市の自然動態の状況などを豊富なデータに基づいて報告してもらいました。人口減少を当然視することなく、人口減少を食い止め、「いずれかの時期に安定化させる方が必要だ」(内海副所長)と改めて思いました。

